

所長だより第81号 令和6年5月7日

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号

<https://uminoko.jp/>

令和6年度児童学習航海スタート 【所長 安江利光】

4月24日、長浜港において、「うみのこ」出航式を行い、令和6年度児童学習航海が始まりました。長浜市立湯田小学校、高月小学校、米原市立伊吹小学校の児童136名が、生き生きわくわくした表情をしながら、式に参加していました。今年度も安心安全な航海となるようフローティングスクール職員一同全力を尽くします。

さて、出航式の代表児童は、「プランクトン観察をとても楽しみにしています。」と挨拶の中で話していました。乗船したどの学校にも言えることですが、子どもたちはフローティングスクールでの学習をとても楽しみにしています。

よく乗船校が選ばれるびわ湖学習として、「島の展望」はもちろん、「プランクトン観察」「びわ湖の水の透視度調査」「湖底の観察」「びわ湖の水のよごれ回復実験」「魚の観察」などがあります。例えば「プランクトン観察」は、目の前で採取したプランクトンを顕微鏡で観察します。子どもたちは、水の色がプランクトンであることに気付くとともに、必ずしも透き通ったきれいな水が生き物にとって良い水であるとは限らないことに気付きます。「びわ湖の水の透視度調査」は、子どもたちが島の展望をしている時「今ここでびわ湖の水を採水しています。後で比べてみましょう。」という放送を入れます。そして、その水の透視度を比べたり、匂いを嗅いだりします。「魚の観察」では魚に触れることも可能です。外来魚のトゲに気を付けながら指で恐る恐るつついたり撫でたりする中で、外来魚が鳥や他の魚に捕食されにくい理由に気付きます。「湖底の観察」では、大津港や長浜港で採取した湖底の泥や砂の中からピンセットを使って貝などの生き物を探します。泥と砂のどちらが生物にとって棲みやすいか自分の目で確かめます。

このように、フローティングスクールでは、本やインターネット上の情報ではなく、実際に見たり触れたり嗅いだりする「本物体験」を大切にしていきたいと考えています。「湖の子」給食を含め、五感をフルに使った琵琶湖の自然や生命と直接向き合う「本物体験」は、子どもたちの自然に直接触れたときの「感動」を呼び起こします。この子どもの頃、感じた「感動」は生涯にわたって自然を愛する心をはぐくんでくれることでしょう。それに加えフローティングスクールでは、同じ学校、違う学校の友だちと考えを交流する機会を多く設けています。子どもたちは多様な価値観に触れ、新たな気付きも生まれます。これを「協働体験」と呼んでいます。「本物体験」「感動体験」「協働体験」が、学校における「フローティングスクール学習」と結びついたとき、新たな発見や疑問となり、より「深い学び」とつながっていくと考えています。

